

## 踊屋台の活躍と衰退

### ●消えゆく運命となっていた文化遺産

ここ福島県福島市で「屋台」と言えば、市内中心部にある福島稲荷神社の秋祭りに行なわれる連山車が有名で、各町会の山車が福島駅前に集合し街なかを巡る姿は、多くの市民に感動と元気を与え、この時期の風物詩となっております。今から約50年前は、数々の山車とともに、2階に舞台を持つ大型の踊屋台が活躍しており、この「踊屋台」もまた子供たちが美しい日本舞踊を披露し、多くの観客を魅了していました。しかし子供たちの減少等により、その殆どは踊屋台が解体、廃棄されその姿を消す中で、この「踊屋台」も昭和31年から約10年目の活躍を最後に活動を止めました。その後、東日本大震災を乗り越え、個人の倉庫に人知れず保管されていましたが、諸事情により処分される運命となっていました。



### ●福島踊屋台について

昭和31年9月に1年余りの歳月をかけ、地元宮大工、八木沢規矩夫氏により完成された踊屋台で、高さ4.5m、幅3.5m、奥行5.6m、前後左右に方位を司る四神の彫刻、一階は太鼓台、二階には子供たちが踊りを披露する舞台がある見事な移動式の大規模踊屋台です。

## 福島踊屋台伝承会の発足

### ●「にのくらい残せないでどうする福島！」

平成25年3月に準備委員会を立ち上げ、屋台の現状調査や他県の屋台保管状況の視察など、復活に向けての準備を始めました。平成26年5月27日、「このくらい残せないでどうする福島！」を合言葉に、有志がNPO法人福島踊屋台伝承会を立ち上げました。



## 復活に向けたプロジェクトがスタート

私たちは踊屋台を目の前にし、福島の未来を担う子ども達もまたこの踊屋台に集まり、踊り、太鼓を打ち、心をつなげ引き出す元気な姿を想像し、多くの文化遺産が消えてゆく中、『このこず』文化への舵をきり、この踊屋台を未来に継承しなければならないと活動をはじめました。

### ●踊屋台の修繕

踊屋台の修繕については、この踊屋台を製作した市内の工匠店「八木沢」に依頼。曾祖父が下絵構想、祖父が棟梁、父親が製作した踊屋台に込められた親子四代の意思を受け継ぎ、50年前の雰囲気や造りを再現しようとする職人魂と復興の祈りを込め、平成26年9月から約2ヶ月を掛け、丁寧に修繕作業を行い、当時の風格もそのままに東日本大震災からの「福島復興のシンボル」として見事に復活を遂げました。



修繕前



修繕後

### ●福島踊屋台伝承館(保管庫)の建設

NPO法人福島踊屋台伝承会が中心となり募金活動を展開し、平成27年9月5日、福島稲荷神社に隣接する地に完成しました。踊屋台を格納する施設ですが、外から館内の踊屋台が見えるよう大きな窓が配置され、夜にはライトアップされます。内側の壁面には、福島大学人間発達文化学類の渡邊晃一教授によって制作された壁画も展示されています。

